



# 北海道情報大学同窓会会報

第4号

発行

北海道情報大学  
同窓会

## 同窓会は 大学の大切なきずな

北海道情報大学

学長 井野 智



夏三連覇なるか。道民だけでなく全国の野球ファンが固唾をのんで見守り続けた甲子園大会が終わり、七三年ぶりとなる快挙は逃したものの、重圧に耐え準優勝を遂げた駒大苫小牧高校の活躍は、多くのことを私たちに教えてくれました。

とくにチーム一丸となって度重なる劣勢を挽回した驚異の粘りは、つよい組織を生み出すうえで何が大切かを知らせてくれたと思います。同じ高校生のすること、チームの強弱は監督の指導力に大きく左右されます。新聞によれば、駒大の香田監督は「大切なきずなをどれくらい多く結ぶかで人生の豊かさは決まる。人と人との連携が重要な野球もきずなの強さで決まる」を持論に、チームの結束力を高め、すばらしい成果を収めたとのこと。

香田監督の持論は、人間関係が希薄になりつつある現代日本社会へのアンチテーゼ、本学のすべての構成員が、その考えを是とし、よりよい大学づくりに最善を尽くしてほしいと願っています。

古くからの歴史ある大学では多くの卒業生が、長く大学と関わり、豊かな人生を送っています。本学もあと二年で創立二〇周年を迎えます。卒業生の皆さん、機会があれば遠慮なく大学を訪れてください。毎年、札幌と東京で開かれる同窓会にも積極的に参加され、教職員や先輩や後輩との親交をふかめ同窓の輪を大きく広げてください。

大学改革が進むなかで、大学への期待や意見を忌憚なく具申できる同窓会の存在が重要視されています。本年度も、同窓会の協力を得て「キャリアガイダンス講座」

を実施しました。四人の先輩の生きた体験談に、普段の講義では得られぬ刺激を受けた学生が多かったと聞いています。同窓会のご支援に感謝するとともに、今後とも特段のご協力を賜りたくお願いいたします。

大学の評価は卒業生の実社会での活躍次第、後輩たちのため、なによりもご自身のため、皆さんの一層の研鑽と発展を期待し、本稿のむすびとします。

## 卒業生寄稿

### 振り返った大学生活 そして社会人

第十一期生

経営情報学部経営学科

中屋 雄一郎

情報大学を卒業して早三年が経過し、現在は東京の企業で勤務しております。改めて振り返ってみると無我夢中の三年間だったと思います。

情報大学を卒業し、東京生活を

始めていくのには、私自身大きな戸惑いがあったことを思い出し、また（特に北海道出身者は道内に就職先を求める人が多く、私もその一人でした！）。

私が就職活動を開始するに当たり、どのような業種に就こうか非常に迷ったことを覚えております。情報大学ということもあり、周囲は当然プログラマー等のコンピュータ関係を第一志望としていた人が多かったのですが、私自身は一生のキャリアとしては、簡単に決めてはいけなさと考えた末、今の就職先を選んだ訳です。

しかしながら、私が就職活動行っていた時期は、いわゆる就職氷河期時代の終盤ではあったものの、学生にとっては非常に厳しい時代でした。特に道内の景気は予想以上に悪く、求人率も少なかつたことを記憶しています。結果的に東京での就職となったわけですが、今では東京の水にも慣れ、仕事も忙しいですが、非常に充実した（公私とも！）毎日を送っております。

三年前に社会人としてのスタートを切ったわけですが、入社してみると同期の仲間が皆大人に見えて、変なプレッシャーがありません。感覚的に異なるのは、スタートラインに立っているのではないかと、錯覚があったのかもしれない。しかし私は、情報大学で学んだ事を恥ずかしく思ったことはあ